

スクール・ミッション及び スクール・ポリシーの策定について

令和6年1月23日

高等学校教育の在り方ワーキンググループ（第10回）

岡山県教育庁高校教育課
高校魅力化推進室

- 1 R3.3.31付け、改正省令等への取組状況
- 2 スクール・ミッションの再定義に向けての取組状況
- 3 スクール・ポリシーの策定に向けての取組状況
- 4 公表方法の工夫
- 5 高等学校と関係機関等との連携協力体制の整備状況
- 6 成果と課題

1 R3.3.31付け、改正省令等への取組状況（令和3年度）

	スクール・ミッション	スクール・ポリシー	関係機関等との連携協力体制の整備
4月	対応を協議		
5月	本県の方針を通知		
		AP策定・公表の要領を通知	
6月	他県に聞き取り調査	AP作成	
7月	自治体を訪問	※AP公表	本県の方針を通知
		※GP、※CP策定・公表の要領を通知	
8月		GP、CP作成	各県立高校等は、外部連携組織を構築し、スクール・ミッションやスクール・ポリシー、学校運営の充実等について協議
9月			
10月	原案作成		
11月	スクール・ポリシーの公表		
12月	各校に原案送付・意見聴取		
1月		※GP：グラデュエーション・ポリシー CP：カリキュラム・ポリシー AP：アドミッション・ポリシー	
2月			
3月	スクール・ミッションの再定義・公表		

1 R3.3.31付け、改正省令等への取組状況（令和4年度以降）

	スクール・ミッション	スクール・ポリシー	関係機関等との連携協力体制の整備
4月		スクール・ポリシー策定・公表の要領を通知	各県立高校等は、外部連携組織の構成機関等を見直し、スクール・ミッションやスクール・ポリシー、学校運営の充実等について協議
5月		スクール・ポリシー作成	
6月			
7月	スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの公表		
8月		適宜、次年度スクール・ポリシー検討	
9月			
10月			
11月			
12月			
1月			
2月			
3月			

2 スクール・ミッションの再定義に向けての取組状況

(1) スクール・ミッションの再定義状況①

ア 各県立高校及び県立中等教育学校への本県における方針の通知（R3.5.25）

- ・ 県立高校及び県立中等教育学校について、「県教育委員会において、各校やその立地する市町等と連携しながら、再定義する」

イ 自治体からの意見聴取（R3.7～11月）

- ・ 県内すべての自治体を訪問

ウ 県立高校及び県立中等教育学校の取組（R3.7月～）

- ・ 各校は、関係する機関又は団体から構成する組織（外部連携組織）を構築し、そこでスクール・ミッションに関する事項について協議し、県教委に報告

2 スクール・ミッションの再定義に向けての取組状況

(1) スクール・ミッションの再定義状況②

エ 原案作成 (R3.10～12月)

- ・ (主体) 県教委
- ・ (方針) 各校の学校経営計画書等をベースに、各自治体や外部連携組織、教育庁内の意見及び将来像等を踏まえて作成。

○全校で文章構成を統一し、一文で表現する。

〈期待される社会的役割…社会や地域の位置づけ〉 ～として、
〈各校の存在意義…過去～現在の視点で取り組んでいる教育活動〉 ～を通して、
〈目指すべき学校像…未来視点で将来的にあるべき姿〉 ～を目指す。

(例) グローバル化に対応した学びを推進し、幅広い知識と教養を培う普通科高校**として**、特色ある分野を設定することにより、主体的に学ぶ意欲や知的好奇心を高め、国際感覚と国際協調の精神を育む教育活動**を通して**、グローバル社会で活躍し、その発展に貢献する人材の育成**を目指す**。

○学校間の序列化につながる表現を避ける。

○汎用性のあるものとする。

○類似する学習活動等について表現をそろえる。

- ・各校にそれぞれの原案を送付し、意見を聴取→原案修正

2 スクール・ミッションの再定義に向けての取組状況

(1) スクール・ミッションの再定義状況③

オ 決裁 (R4.3月)

スクール・ミッションの再定義は教育委員へ事前に説明した上で教育長決裁事項として扱った。

(2) 適用期間

令和4～令和10年度まで

(「岡山県立高等学校教育体制整備実施計画」(H31.2月策定)の計画期間終了まで)

(3) 公表状況

	対 象	方 法	理 由
令和4年度 3月	県立高校・県立中等教育学校・各市町村教育委員会 等	スクール・ミッションの一覧を通知	・各校において、次年度の学校経営計画書等を作成する必要があるため ・自治体訪問にて意見を拝聴したため
令和4年度 以降、 毎年度7月	中学生・保護者 等	各校の次年度入学者用スクール・ポリシーの様式にスクール・ミッションを併記し各校・県教委のHP等で公表	スクール・ポリシーとともに公表することで、中学生の学校選択においてより効果が見込まれるため

3 スクール・ポリシーの策定に向けての取組状況

(1) 策定状況

ア 各県立高校等への本県における方針の通知 (R3.5.25)

(ア) 方針

- ・ 令和4年度以降の入学生に対して、毎年度、策定し、ホームページ等で公表すること。
- ・ 県教育委員会において、各校のスクール・ポリシーをとりまとめたものを公表する。
- ・ 中等教育学校においては、アドミッション・ポリシーについても策定し、公表すること。また、前期課程から後期課程までを通したスクール・ポリシーを策定すること。

(イ) 留意事項

- ・ 「生徒や学校外の関係者から意見やニーズ等を十分聴取すること。」
- ・ 「県教育委員会が再定義するスクール・ミッションを踏まえて策定すること。ただし、当該再定義に先行してスクール・ポリシーを策定する場合は、県教育委員会及び各校が定める各種計画及び方針等を踏まえること。」
- ・ 「校長がリーダーシップを発揮しながら、全教職員が当事者意識をもって参画し、組織的かつ主体的に策定すること。」
- ・ 「中長期的な展望に基づき策定すること。」

イ 県立中学校（併設型）への策定・公表の依頼 (R3.7.12)

- ・ 県立中学校においては、県立中等教育学校と同じ適性検査等を実施していることから、県立中等教育学校と同様、スクール・ポリシーを策定し、公表することを依頼

3 スクール・ポリシーの策定に向けての取組状況

(2) 公表時期及び適用期間

校種	対象生徒	グレード・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
高校	令和4年度入学生用	令和3年11月17日		令和3年7月1日
	令和5年度以降の入学生用	各年度において、入学する前年度の夏頃までに		
県中 中等	令和4年度入学生用	令和3年10月8日		
	令和5年度以降の入学生用	各年度において、入学する前年度の夏頃までに		

※令和5年度以降、高校・県中・中等ともに7月上旬に公表

3 スクール・ポリシーの策定に向けての取組状況

(3) 入学者選抜の改善

スクール・ミッション及びスクール・ポリシーの公表により、今以上に「この学校で学びたい」という明確な目的意識を持った志願者が増加することが見込まれるため、次のとおり入試制度を変更。

項目	時期	学科	変更前	変更後
特別入学者選抜における募集人員比率の拡大	令和5年度～	専門学科 総合学科	募集定員の 50%	学科ごとに募集定員の50～80% 各校で設定可
		一部の普通科	募集定員の 30%	募集定員の30～50% 各校で設定可
学区を持つ普通科における学区外からの受入枠の拡大	令和6年度～	学区を持つ 普通科	募集定員の 5%	3学級以下の普通科 …募集定員の5～30%又は全県学区 4学級の普通科単科校 …募集定員の5～20% 各校で設定可

4 公表方法の工夫

全日制	岡山県立 岡山城東	所在地	岡山県岡山市中区下 110
		連絡先	Tel: 086-279-2005 Fax: 086-279-9913
学科・ コース等	単位制 普通科		
URL	http://www.joto.okayama-c.ed.jp/		

スクール・ミッション

グローバル化に対応した学びを推進し、幅広い知識と教養を培う普通科高校として、特色ある分野を設定することにより、主体的に学ぶ意欲や知的好奇心を高め、国際感覚と国際協調の精神を育む教育活動を通して、グローバル社会で活躍し、その発展に貢献する人材の育成を目指す。

**スクール・ミッションと
スクール・ポリシーを併記**

**グラデュエーション・
ポリシー**

**育てたい
生徒像**

【普通科】

- 進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動する生徒。
- お互いの立場を考え、協力して助け合う生徒。
- 学業に励み、高い知性・豊かな情操を身に付けた、心身ともに健康な生徒。
- 日本と世界の文化と伝統への理解を深め、国際感覚と国際協調の精神を身に付けた生徒。

**カリキュラム・
ポリシー**

**学びの
内容・方法**

【普通科】

- 単位制による学びで進路志望に応じた最適な学習プランを提供するとともに、キャリア教育の充実を図ります。
- 2年次からの幅広い科目選択と、人文社会学類・国際教養学類・音楽学類・理数学類の学類選択で、個々に応じたきめ細かな指導を実施します。
- SDGs を基盤とした専門性の高い課題研究を、県内外のネットワークや大学等と連携して行い、課題解決能力の伸長を図ります。

**アドミッション・
ポリシー**

**求める
生徒像**

【普通科】

- 何事にも積極的にチャレンジする進取の気性を持ち、自主的・自律的に行動することができる生徒。
- 学校やクラスの中で、お互いの立場を考え、協力して助け合う気持ちを持った生徒。
- 自ら見つけた課題について探究していこうという意欲のある生徒。
- 生徒会活動や文化的・体育的な活動に熱心に取り組んだ経験を持ち、今後その経験を生かしていこうとする生徒。

県立高校 51校
 県立中学校 3校
 県立中等教育学校 1校
 市立高校 11校
 計66校を一覧で掲載

4 公表方法の工夫

各校ホームページ

- ・ 学校経営計画書にスクール・ミッションを掲載
- ・ 中学生向けページ等にスクール・ポリシーを掲載



林野高校の「スクールミッション」「スクールポリシー」

令和5年度入学生 スクールポリシー「求める生徒像」「学びの内容方法」「育てたい生徒像」

HAYASHINO HIGH SCHOOL POLICY 一林野高校が目指す道一

SCHOOL MISSION 確実な知識と態度を培う教育活動を通して、地域神々の継承や課題解決学習、ICT（情報通信技術）を活用した学びの推進により、主体性を高める教育活動を通して、社会で活躍し、その発展に貢献する人材の育成を目指す。

育てたい生徒像

- 知識や技能を身に付け、さまざまな場面で有効に活用することができる生徒
- 多様な社会の中で、課題に対してのより良い解決策や新たな価値を創出することができる生徒
- 授業を見逃して社会や自然と関わることができる生徒
- 自己や他者を認め、課題して課題を解決することができる生徒

学びの内容・方法

ICT環境、PBL環境、学校行事、国際交流

求める生徒像

- 大学進学等の進路実現に向けて、主体的に学習する強い意志がある生徒
- 自ら課題を見つけ、課題解決のために積極的に行動しようとする生徒
- 生徒会活動、部活動、ボランティア活動等に積極的に取り組む生徒

岡山県教育委員会ホームページ

県立高校・県立中学校・県立中等教育学校・市立高校を一覧で掲載

岡山県教育委員会ホームページ

岡山県ホーム > 教育委員会 > 岡山県公立高等学校の三つの方針（スクール・ポリシー）

第3次岡山県教育振興基本計画 基本目標
「心豊かに、たくましく、未来を拓く」人材の育成

岡山県公立高等学校の三つの方針（スクール・ポリシー）

- 県立学校案内・入試・転入学
 - 中学校・中等教育学校
 - 高等学校
 - 特別支援学校
 - スクールガイド・転入学
- 授業料・給付金・奨学金
 - 授業料・給付金・奨学金
- 相談窓口

印刷用ページを表示する 2022年7月1日更新/高校魅力推進室

岡山県公立高等学校の三つの方針（スクール・ポリシー）
令和4年公表
岡山県公立高等学校の三つの方針（スクール・ポリシー）（令和4年7月）[PDFファイル/2.21MB]

おokayama県立高校情報ナビ

おokayama県立高校情報ナビ

あなたの「行きたい」が「県立」にある。

あなたの「行きたい」が「県立」にある。

「オープンスタール」の目標を掲げよう！

地域から探す | 学科から探す | 資格・検定の分野から探す | 部活動から探す | オープンスタール | 進学支援・留学 | 県立高校の魅力

NEWS

お知らせ

- 2022.09.19 お知らせ ようこそ岡山へ！公開募集校一覧
- 2022.07.07 お知らせ 令和5年度公開募集の募集人員について
- 2022.07.01 お知らせ 公立高等学校の令和5年度入学生に対する三つの方針（スクール・ポリシー）
- 2022.07.01 お知らせ 令和5年度岡山県立高等学校入学者選抜試験入試の公表
- 2022.05.19 お知らせ オープンスタール情報更新しました。

5 高等学校と関係機関等との連携協力体制の整備状況

(1) 整備状況

ア 各県立高校及び県立中等教育学校への関係機関等との連携協力体制の整備についての通知（R3.7.26）

(ア) 方針

岡山県では、学校運営協議会制度を令和元年度に導入し、地域と学校の実態を踏まえながら、県立学校への導入を積極的に検討していることに加え、令和3年3月31日付けで令和4年度から高等学校及び中等教育学校の後期課程においては、関係機関及び関係団体との連携協力体制の整備が努力義務化されることにより、新高等学校学習指導要領で掲げる「社会に開かれた教育課程」の実現による各校の魅力化・活性化をより推進する方策として、県立高等学校及び県立中等教育学校においては、令和3年度から、各校及び関係する機関又は団体（以下「機関等」）から構成する組織（以下「外部連携組織」）を構築すること。

(イ) 役割

外部連携組織においては、次に掲げる事項について協議を行うとともに、構成する機関等からの協力を求めるものとする。

- ・ 学校の存在意義や社会的役割に関する事項
- ・ 学校経営方針や各校における三つの方針（スクール・ポリシー）の策定に関する事項
- ・ 学校運営の充実に関する事項
- ・ 各学科や学校全体における教育活動の充実に関する事項
- ・ その他各校が必要とする事項

6 成果と課題（スクール・ミッション）

成果	<ul style="list-style-type: none">○統一感のある表現としたことで、<u>学校間の特色や教育活動が比較しやすいものとなった</u>○汎用性がある（抽象度が高い）ため、<u>各校はスクール・ポリシーを策定しやすい</u>○<u>学校内外の関係者の意向を一定程度反映</u>
課題	<ul style="list-style-type: none">○<u>学校名を伏せると、どの学校のスクール・ミッションかわかりにくい</u>○<u>県教委の方針と学校の思いとのギャップ</u> （例）「地域の進学拠点校」 県教委：学校間の序列化につながる可能性があり使用しない 学 校：進学校としての役割を地域も期待しているため使用したい →学校が策定するスクール・ポリシーに反映する○表現や内容の具体性や妥当性<ul style="list-style-type: none">・内容によっては、<u>教員配置、施設・設備の整備、予算措置が必要</u>・<u>具体的にすると文章が長くなり、抽象的にすると内容がわかりにくくなる</u>○<u>都市部の普通科高校や隣接する同一の専門高校におけるスクール・ミッションの差別化</u>○<u>自治体訪問の日程調整や移動等には時間と労力を要する</u>

6 成果と課題（スクール・ポリシー）

成果	<ul style="list-style-type: none">○受検を控える生徒及びその保護者等にとって、<u>学校選択に資する材料の一つ</u>○<u>入学者選抜の改善</u>
課題	<ul style="list-style-type: none">○県教委で取りまとめて一覧にすることから様式や書き方等についての要領を定めたが、<u>学校によってボリュームや表現にばらつき</u>（特に、カリキュラム・ポリシー） →修正・調整に時間を要した○各ポリシーにおける表現や内容<ul style="list-style-type: none">・<u>中学生等への分かりやすさ</u>・新学習指導要領との整合性・ポリシー同士の整合性○<u>学校内外における学校関係者の参画の程度に差</u>○令和3年度については、<u>検討する期間が短い</u><ul style="list-style-type: none">・県の方針を通知してから策定まで約半年

6 成果と課題（関係機関等との連携協力体制の整備（外部連携組織））

成果	<ul style="list-style-type: none">○<u>全校で連携協力体制を整備</u>○学校運営協議会制度の未導入校に対して、<u>導入への足がかり</u>
課題	<ul style="list-style-type: none">○各校の負担増<ul style="list-style-type: none">・令和3年度途中に各校に構築するよう通知・<u>毎年度構成機関等の見直しが必要</u>○各校での協議等が、<u>県教委へのスクール・ポリシーの提出期日よりも後の場合がある</u> →前年度末に次年度のスクール・ポリシーについて協議を行う等の工夫が必要○<u>学校間で取組の程度に差</u>